

2025 年度日本語教育学会秋季大会 大会若手優秀発表賞（口頭発表） 受賞コメント

松井佑樹（早稲田大学大学院生）

この度は大会若手優秀発表賞という荣誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。日頃よりご指導くださる先生方、調査にご協力くださった学習者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

本研究では、日本語教育における語彙テストと語彙学習を架橋する試みとして、生成 AI と自作チャットボットを用いたダイナミック・アセスメントの教育的効果および評価の有用性を検証しました。従来の多肢選択式語彙テストは効率性・公平性に優れる一方、テストを通じた学習促進や、語彙知識の診断的分析には限界があります。本研究では段階的ヒントを組み込んだ自由記述式の動的語彙テストを開発・実施した結果、介入群は事後・遅延テストにおいて有意に高い語彙定着を示しました。更に動的スコアや自由記述回答の分析



から、静的かつ選択式テストでは見えない学習者の語彙習得過程や足場掛けの効果を可視化できることが示されました。また、多言語による自由回答の正誤判定への生成 AI 活用が、実践可能性の面でも一定の妥当性を持つことを確認しました。

この研究の根幹には、効果的な学習のために「使えるものは何でも使うべき」という発想があります。母国では母語を使って日本語を学んできた学習者が、来日後の授業でそれができなくなるのは、教師が全言語に対応できない以上、仕方がないと捉えられてきました。しかし、最新の IT ツールを工夫して活用することで、国内においても学習者の言語リソースを活かす選択肢が生まれます。自分のスマホから自由記述で回答させ、それを AI に判定させるという方法は、ダイナミック・アセスメントの足場掛け×複数回答の仕組みと相乗効果を発揮しました。

本研究は私の初めての研究かつ修士論文として約 2 年かけて取り組んだものです。李在鎬先生をはじめ、研究科の先生方からは一定の評価を頂きながらも、研究科の外でいかに受け止められるかには不安もありました。転機となったのは 2024 年度秋季大会の交流ひろばへの出展です。初めて広く研究内容を共有し、意見交換を通して確かな手応えを得ました。その後、協力者を募って本調査を実施し、修士論文としてまとめた上で、本大会での発表機会を頂戴しました。本質的なご質問や温かいご助言を多数頂き、2 年間の歩みが確かなものであったと実感しました。受賞はまったく予期していなかっただけに喜びもひとしおであり、同時に今後の研究に向けて思いを新たにしています。

今後も研究の方向性は大きく変えませんが、文章理解を最終目的として据えた上での語彙習得・評価の研究に取り組みたいと考えています。本研究においても文脈からの未習語推測という形式を採りましたが、「すべての語彙を理解できれば文章は理解できるのか」、「理解できない文章を読んでいる時、どのような足場掛けがあれば理解できるのか」といった問いが調査中にも自然と浮かびました。こうした問いに答えるべく、引き続きダイナミック・アセスメント、AI、自由記述といったキーワードを中心に研究を深めて参りますので、同様な関心をお持ちの方はぜひお声がけ頂きますと幸いです。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2025 年度日本語教育学会秋季大会 大会若手優秀発表賞（ポスター発表） 受賞コメント

Hoang Ngoc Bich Tran（岡山大学大学院生）

この度は、大会若手優秀発表賞を授与していただき、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を頂戴し、身に余る光栄と存じます。何よりもまず、インタビュー調査にご協力いただき、ご自身の経験を率直に語ってくださったSさんに、心から感謝申し上げます。



本発表は、精神的苦痛を抱える元ベトナム人技能実習生Sさんがなぜ逆境の中でも日本語学習を続けていたのか、どのようにウェルビーイングに至ったのかを明らかにするため、半構造化インタビューを実施し、その語りを複線経路等至性アプローチを用いて分析しました。分析の結果、Sさんにとっての日本語学習の意味は「制度や社会の要請に応じる手段」から「自分自身を取り戻し、社会の中で意味ある存在として生きるため」へと変容していたことが明らかになりました。来日当初、Sさんは、日本語能力に基づく残業機会の配分や、特定技能制度の日本語要件、監理団体の奨励制度に後押しされ、将来の転職や報酬を目標に日本語を学んでいました。その間に職場でのパワハラにより、うつ病を発症し、マネジャーの偏見に気づいたことを契機に、日本語を「労働力以上の存在」である自分を証明する手段として、学習を続けるようになりました。しかし、その努力は健康や幸福の状態には結びつかず、Sさんは命の危機にまで追い込まれました。転機となったのは地域日本語教室への参加でした。そこで、安心して本音を語り、日本人から真心をもって受け入れられる経験が、Sさんの心を解放しました。さらに地域のボランティア活動や困難を抱えるベトナム人技能実習生の支援に関わる中で、自分にとって意味のある生に出会いました。このように、Sさんの語りは、「将来のために今を犠牲にする学習」から「今の生を豊かにする学習」への転換、学びの意味を学習者と共に問い直し、心通う対話の場を築くことの重要性を訴えています。

Sさんの願いは、自身の声を日本社会に届けることで、外国人労働者の生の質や日本語教育機会の向上に寄与することです。日本語学習や生活面の支援で技能実習生と関わってきた私は、その願いに共鳴し、発表の準備にあたっては、Sさんの語りを誠実かつ丁寧に伝えたいと強く感じました。本発表を通して、その思いが少しでも皆様に伝わっていれば、大変嬉しく思います。

近々、育成就労制度への移行に伴い、日本語教育は試験合格や特定技能への接続が重視されています。しかし、当事者の声を十分に反映し、外国人就労者の「生」を大切にする視点からの議論は依然として少ないのが現状です。今後も当事者の声に耳を傾け、心身の健康を支える学びの場の創出に貢献できるよう、研究に励んでいきたいと考えています。

最後に、このような機会をくださった大会の先生方、本発表をご覧くださり、ご意見やご質問をくださった皆様に、心よりお礼を申し上げます。また、研究をご指導くださった先生方、温かく励ましてくださった先生方、そして支えてくれた家族に、深く感謝いたします。研究者として、未熟な部分が多々ございますが、今後ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

[2025 年度日本語教育学会秋季大会 (富山国際会議場, 2025. 11. 23) 口頭発表③]

AI を用いた語彙のダイナミック・アセスメントの効果

—診断的語彙テストを通じた語彙の定着—

松井佑樹

本研究では、日本語教育における語彙学習を評価・支援する新しい手法として、生成 AI と自作チャットボットを用いたダイナミック・アセスメント (Chatbot-Assisted Dynamic Assessment ; CA-DA) ツールを開発し、自由記述式かつ多言語対応である動的語彙テストの教育的効果や実用性を検証した。DA の理論に基づき、段階的なヒントの提示を伴う CA-DA を実施した介入群と従来型語彙テストを実施した統制群の群間比較調査からは、事後および遅延テストにおいて介入群に優れた語彙定着が確認された。また、CA-DA (介入群) における各協力者の動的スコアや自由記述による回答ログの分析を通じ、従来の選択式・一問一答式テストでは測れない動的な語彙知識や理解過程、誤回答の特徴が可視化され、学習者の診断的情報の取得という観点からも CA-DA の有効性が示された。

(松井—早稲田大学大学院生)

[2025 年度日本語教育学会秋季大会 (富山国際会議場, 2025. 11. 23) ポスター発表②]

うつ病を経験した技能実習生と日本語学習の意味

—ウェルビーイングの視点から—

Hoang Ngoc Bich Tran

本発表では、抑圧され精神的苦痛を経験した元技能実習生 S さんが日本語学習の意味をどのように捉え、それがウェルビーイング (WB) の回復・向上にどうつながったかを検討する。インタビューの語りを TEA を用いて分析した結果、S さんは当初、「日本語を学べば報われる」というイデオロギーのもとで学習していたが、差別や排除の経験の中でその意味を問い直し、「自分を取り戻し、社会で意味ある存在として生きるため」の学習へと変容していた。その過程には、「安心と解放」「対話や活動への参加」「信頼できるつながり」「学習の再定義と社会貢献」「日本語能力の獲得と社会的承認と権利主張」が WB を促す要素として作用していた。以上より、日本語教育には「日本語を学べば報われる」を再生産するのではなく、学習者の社会的背景に目を向け、学びの意味を共に問い直す姿勢と心通う対話の場づくりが求められると結論付ける。

(Hoang—岡山大学大学院生)